

Ring! Link! Zero 2011ニュース●●●

Ring! Link! Zero 実行委員会 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-20-2 (民青同盟内)

2011年6月17日

Ring! Link! Zero 2011に向けてプレ企画を開催！！



6月9日、19時から東京・杉並区「あんさんぶる荻窪」第2教室を会場にプレ企画を開催しました。杉並は原水爆禁止署名運動が始まった地です。

企画のはじめに、渋谷要さん（元大田区議会議員）を講師に招いて「原水爆禁止運動始まりのハナシ」と題してお話をいただきました。

1954年3月1日のビキニ事件をきっかけに始まった、日本の核兵器廃絶の署名運動。渋谷さんは最初の署名運動から今回新しく始まった署名までずっととりくんできた、まさに運動の生き証人。どんな決意や思いで原水爆禁止運動がはじまった

のか、どんな思いで長年とりくんでこられたのかお話しいただきました。

（以下、渋谷さんの話の要約）

【戦争反対・核廃絶運動のきっかけ】

1933年に生まれて78歳を迎えました。中野で生まれ育ったが小5の時に父の実家の山形に疎開。高1の時に父の事業の失敗で中退をし、事業をおこしました。その苦勞をしたときに「戦争というのは本当にダメだ！」と思いました。事業を譲渡して東京に戻り、新宿の高校へ再入学。その年、全身やけどを負った被爆者の方が上野駅で「これが新兵器の犠牲だ！」と裸になり叫んでいた。警官がすぐつれていってしまったが、それを見たことが私の核兵器廃絶の思想となっています。

1954年3月1日にビキニ事件があり、14日に読売新聞が報道。「ヒロシマ・ナガサキをくりかえしてはならない。ただちに核は廃絶しなければ」と自分で署名をつくって、沼袋の駅ではじめました。ものすごい人が集まってきて署名をしました。また、青年会の会長をやっていたのでそのつながりで運動をひろげました。

【署名運動の始まりと発展】

中野懇談会という文化運動団体の事務局員になってからは、諸所で始まっていた署名運動を結合させようと協議会をつくるのに奔走しました。中野は図書館長、杉並は公民館長を会長に協議会を結成。中央線沿線の文化人、学者や会派を問わず中野選出の国・都・区議会議員、お寺など様々なところに要請に行きました。どこへ行っても賛同が大きくひろがっていきました。こうやって地域でつくった署名運動協議会が都に広がりました。一人ひとりと話し理解してもらうことを大事にすすめていきました。

PTAにも広がり、3月30日には世田谷区議会で核兵器の無条件禁止決議が全会一致で採択。その後次々と市区町村議会で原水爆禁止の決議が広がっていったのです。

【青年が運動の中心に】

このような大きな運動の働き手は青年でした。自分も当時は20歳。体力があったので自転車でいたるところをまわって要請をしました。

そうした急速な運動の広がりです。翌1955年には第1回原水爆禁止世界大会が開催され、また署名も3238万余筆あつまりました。当時日本の人口は1億人いませんでしたから、どれほど国民の怒りが強かったかが伝わるかと思えます。地域運動の先駆けであった杉並から原水協の事務局長を出し、中野から事務局次長を出しました。

当時はアメリカ占領下で、占領政策の変更から日本の労働運動に大きな攻撃が加えられていた時期でした。そういった中で原水爆禁止運動に被爆者をはじめ、多くの人たちがあがり、日本被団協が設立されたり、日本母親大会が開始したりしました。そしてそれらが、青年運動や労働運動の前進、安保闘争に発展につながっていきました。核戦争をやめさせるためのヒロシマ・ナガサキアピール署名運動は2度目の大きな運動でした。ありとあらゆるところに呼びかけをしました。1万人運動をする人を呼びかけて、大田区だけでも36万筆集めたのです。

ビキニ事件で青年が当時立ち上がったように、今の原発の問題でも運動が広がり始めています。救国の精神で運動を進めれば、多くの国民のみならず外国からも支持を受けます。運動をすすめるためには一人ひとりの自覚が大事だと思います。今は上から下へと組織的におろすような運動をするそういう状況ではありません。今回提起された新しいアピール署名も1000名協力員をつくってすすめていきたい。底辺を広くして、若いエネルギーで頑張ってもらいたいと思っています。（文責：実行委員会事務局）

★参加者の感想★

- 当時の運動の広がりがすごかったです。思想・団体の違いを超えての一致点での運動の大切さ、そしてその中で青年の集まりの大切さなどをつかめました。（学生）
- 長く運動にたずさわってきた方が「核廃絶が今ほど手近になっていることはない」と話されていたことに展望を感じました。（学生）
- 運動の賛同を得るために一人ひとりに声をかけた活動は、まさに運動を起こす原点だと思う。そして地域からの運動の強さを感じた。救国の精神があれば国民の支持を得るとするのはその通りだと思う。（業者青年）

～Ring! Link! Zero 2011へのとりくみ・思いを交流～

渋谷さんのお話が続いて、全体交流をもち、東洋大学2年生の小山さん、神田外語大学4年生の吉田さん、原水禁世界大会実行委員会運営委員の小林さんから発言がありました。

【小山さん】

昨年、「先輩たちがやっているから」ということで運動に関わり、原水爆禁止世界大会に初めて参加しました。折り鶴も集める中で、「核兵器は無くせるのか？」や「核兵器は必要」といった疑問や意見も寄せられました。



広島では、平和式典に国連事務総長が来ており、核兵器廃絶は自分だけでなく世界が求めていることなのだと感じました。また、Ring! Link! Zero や世界大会に参加して、全国に頑張っている仲間がいるということや核兵器は無くせよということを知りました。

最近になって今年も折り鶴を集めようと動き始めました。

今年は原発事故の影響もあり、多くの人が放射能の恐ろしさを身近に感じていると思います。同時に、「原子力の平和利用」ではなく「軍事利用」である核兵器に対する関心も高まっていると思います。昨年の経験もいかしながら、学内でも積極的に運動をしていきたいです。

【吉田さん】

昨年パネラーとして「Ring! Link! Zero」に参加させてもらい、周りの友人から平和のメッセージをスケッチブックに書いてもらいながら集めた経験などを話しました。その後、フェイスブックやツイッターなどで集めたメッセージやNPTニューヨーク行動の写真などをUPしたところ、興味ないだろうと思っていた友人が結構見えていて、コメントを寄せてくれました。今年は大学の中の友人や後輩にもNPTの経験も積極的に話して、平和の集まりもつくって長崎に向かいたいと思っています。

【小林さん】

みなさんは原発の事故の放射線のことをどれくらい不安に思っていますか。私は豆腐屋をやっていて、事故の後に同業者で連絡をとりあい対策を考えたり、お客さんからは大丈夫なのかという声が寄せられたりという経験をしました。私の知り合いの東北からの産地直送の野菜を売っていた八百屋も廃業することになりました。このことを通して、ビキニ事件後に魚が売れないという当時の話がよくわかりました。地域のママさんたちは非常に関心も高く、不安に思っています。先日うちの妻やママ友と一緒に「放射線の状況をキチンと測ってほしい」と文京区や杉並区に要請に行きました。ビキニの時と同じでママさんたちと業者の人たちが動いています。この思いや動きは核兵器廃絶の事にもつながっていくと思います。毎月やっている被爆者訪問もする中で、そのつながりが見え始めています。長崎に向けて折り鶴もたくさん集めながら、みんなで一緒に大会に参加したいです。

企画の最後に実行委員会を代表して、全学連の塚田さんからRing! Link! Zero2011に向けての行動提起がされました（p4 参照）。

この中央実行委員会でのプレ企画を皮切りに、行動提起にこたえて運動を広げ、今年のRing! Link! Zero へぜひご参加ください！！みなさんの参加をお待ちしています！

Ring! Link! Zero 2011

2011年8月7日（日）18:30～

長崎市民会館体育館（原水禁世界大会長崎の開会総会の後、同会場です）

参加費：一般¥1,000 学生・高校生¥500

実行委員会が荻窪駅前で宣伝行動！！



プレ企画に先立って、荻窪駅前で行った実行委員会のメンバー7名が、宣伝行動を行い「核兵器全面禁止アピール」署名の呼びかけ、Ring! Link! Zero への参加を訴えました。

全労連青年部、民青、日本のうたごえ協議会の仲間がマイクをもち、それぞれ核兵器廃絶の思いをそれぞれ語りました。「原水禁世界大会に向けて大きく署名を集め、国連へとどけます。みなさんの核兵器廃絶の思いを署名に託してください」「核兵器ってやっぱりいらぬよねという声を大きく広げたい」「核廃絶への思いをうたにこめてうたいます」とそれぞれの個性あふれる訴えでした。30分あまりの宣伝で15筆の署名があつまり、原水禁世界大会のチラシもたくさんうけとられました。

～Ring! Link! Zero 2011 プレ企画行動提起～

☆「核兵器のない世界」の実現にむけて、「核兵器全面禁止のアピール」署名を大きく集めましょう。当面、原水爆禁止世界大会を目標に署名をひろげましょう。

☆原水爆禁止世界大会と Ring! Link! Zero2011 へ、青年の参加を呼びかけ大きく成功させましょう。

上記の目標に向けて

- 各都道府県・地域でもプレ企画、被爆者の体験を聞く会、学習会等を開催し青年への呼びかけを進めましょう。
- 各都道府県・地域でとりくまれている国民平和大行進などの運動へ、積極的に青年の参加を呼びかけその成功へ力を合わせましょう。
- 諸団体・個人が共同し、各都道府県・地域で「核兵器のない世界」をめざす青年のネットワークづくりを進めましょう。
- 署名を大きく広げるために、さまざまな工夫をこらしてとりくみましょう。